

アジアとアフリカの言語地域

西山國雄 / 茨城大学

近年言語変化の研究が盛んになってきている。形式言語学ではこれまで共時文法で提案された原理がいかに通時変化にも適用できるか、という視点で研究がなされ、また記述言語学では関連する言語や方言の多様性がいかにして出来たか、という問題意識がある。これらに共通するのは、1つの祖語からいくつかの言語に分かれていったという「系統発達」だが、これだけでは説明できない現象も多く、ここで重要になってくるのは「言語接触」の視点である。系統発達と言語接触の2つの要因が絡み合って、共通の特徴を持つ複数の言語が存在する地域を「言語地域」と呼ぶが、本シンポジウムではアジアとアフリカにおける4つの地域の言語事情を扱い、言語地域という概念がいかにして文法的特徴や多様性を説明する上で有効になるかを考えていく。

1 背景

通時文法と共時文法の分離 → 両者の接近

形式言語学

話者の直観（通時文法）を基に構築した原理を、言語変化に応用

記述言語学

多くの言語の記述が進むに伴い、それらの共通性と多様性を歴史的関係から考察

歴史言語学の複眼化（Campbell 2006 も参照）

比較方法の限界

言語地域と言語接触の重要性

複数の言語が共通の文法的特徴を持つ場合、普遍性と偶然の2つの要因を除くと、更に4つの可能性がある。

語族内：共通の祖語からの継承（inheritance）

下位グループでの革新（innovation）

語族外：言語接触による借用（borrowing）や拡散（diffusion）

接触を伴わない平行的発達（parallel development）

語族の発達は樹形図モデルのようにきれいに分かれるのではなく、実際の話者は絶えず流動し、他言語との接触が起こる。

2 言語地域とは

とりあえずの定義：

近隣の複数の言語で、共通の祖語に起因するとは考えにくい共通の文法的特徴がある場合

言語地域の例（Language Sciences Vol. 20, Issue 3 (1998), Thomason 2001, Aikhenvald and Dixon 2001, 2006, Matras et al. 2006, Muysken 2008, Matras 2009）

バルカン、バルト、(西)欧州、トルコ、中国・チベット、(東)シベリア、コーカサス、インド、インドシナ、スリランカ、東インドネシア、ニューギニア、オーストラリア、エチオピア、西アフリカ、北アメリカ太平洋岸、メソアメリカ、アマゾン

言語地域の研究の歴史と定義 (Campbell 2006)

バルカン地域が古くからこの特徴を持つとされ、Trubetskoy (1928)が Sprachbund の概念を提唱し、Jakobson (1931)も続いて、この概念が定着した。

全てにあてはまる「言語地域」の定義はない

いくつの言語？

2つの言語で言語地域を形成すると仮定すると、世界のあらゆる地域に存在することになり非現実的。しかし2つと3つ以上の場合とで本質的な違いはない。

いくつの特徴？

バルト言語地域を提唱した Jakobson (1931)は、1つの音韻的特徴を述べただけ。どの特徴を含めるかで、ある言語が特定の言語地域に含まれるかは左右され、その地理的境界線も左右される。

複数の語族？

バルカン地域は全て印欧語族 (トルコ語を含める研究者もいるが)

言語接触？

アマゾン言語の Evidentiality は、遠く離れて接触 (もちろん歴史的関係も) がない場合でも見られる (Aikhenvald and Dixon 1998)。

本シンポジウムで扱う地域と順序：

(日本を含む) 北東アジア-- (大陸) 東南アジア--太平洋 (東インドネシア) --アフリカ

参考文献

- Aikhenvald, Alexandra Y. and R.M.W. Dixon. 1998. Evidentials as areal typology. *Language Sciences* 20: 241-257.
- Aikhenvald, Alexandra Y. and R.M.W. Dixon. 2001. *Areal diffusion and genetic inheritance: Problems in comparative linguistics*. New York: Oxford University Press.
- Aikhenvald, Alexandra Y. and R.M.W. Dixon. 2006. *Grammars in contact: A cross-linguistic typology*. New York: Oxford University Press.
- Campbell, Lyle. 2006. Areal linguistics: A closer scrutiny. In Matras et al (eds.).
- Jakobson, Roman. 1931. Über die Phonologischen Sprachbünde. In *Roman Jakobson. Selected Writings*, vol. 1. The Hague: Mouton.137-143 [reprinted 1971].
- Language Sciences. 1998. Vol 20, Issue 3.
- Matras, Yaron. 2009. *Language contact*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Matras, Yaron, April McMahon, Nigel Vincent. 2006. *Linguistic areas: Convergence of historical and typological perspective*. New York: Palgrave Macmillan.
- Muysken, Pieter. *From linguistic areas to areal linguistics*. Amsterdam: John Benjamins.
- Trubetskoy, Nikolai Sergeevic. 1928. [Proposition 16] *Acts of First International Congress of Linguistics*, 17-18 (Leiden).
- Thomason, Sarah G. 2001. *Language contact: An introduction*. Washington D.C.: Georgetown University Press.